

LOBO 調査

早期景気観測

8月 日商調査日 8月9日～20日
当所調査日 8月9日～22日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、商工振興員の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

8月の全産業DI ▲21・0
(前月比 ▲0・8ポイント悪化)

○中小企業の景況感

深刻な人手不足や原材料費の高止まり、米中貿易摩擦や世界経済の先行き不透明感が製造業を中心に広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感は、足元で弱い動きが続いている。

○マイナス要因

急激な猛暑の到来や台風などの天候不順に伴う客足減少により、飲食・宿泊業を中心にサービス業の業況が悪化した。

○プラス要因

気温の上昇により飲食料品などの夏物商材の需要が拡大し、小売業や卸業の業況が改善。

○先行き

先行き見通しDIが ▲22・7ポイント

ト(前月比 ▲1・7ポイント)悪化。
○期待感
個人消費の拡大やインバウンドを含む観光需要拡大への期待感がうかがえる。

【関東ブロックの業況】(コメント)

猛暑が続く中、作業効率よりも現場の作業員の安全確保を優先し、水分補給や休憩の確保などの熱中症対策を行ったため、工期を延長せざるをえなくなり、経費が増大した。また、深刻な人手不足から下請業者がなかなか見つからず、受注できない案件も多い(管工事業)。

猛暑による消費者の購買意欲の減退を懸念していたが、お盆の帰省客を見込んだ受注増があり、売上は改善した。秋の観光シーズンに向けて増産体制を整え、需要の取り込みを図りたい(食料品製造業)。

堅調な建設需要を背景に売上は増加しているが、運送コストや人件費・外注費、仕入価格上昇分を販売価格に転嫁できず、採算確保に苦戦している(建設資材卸売業)。

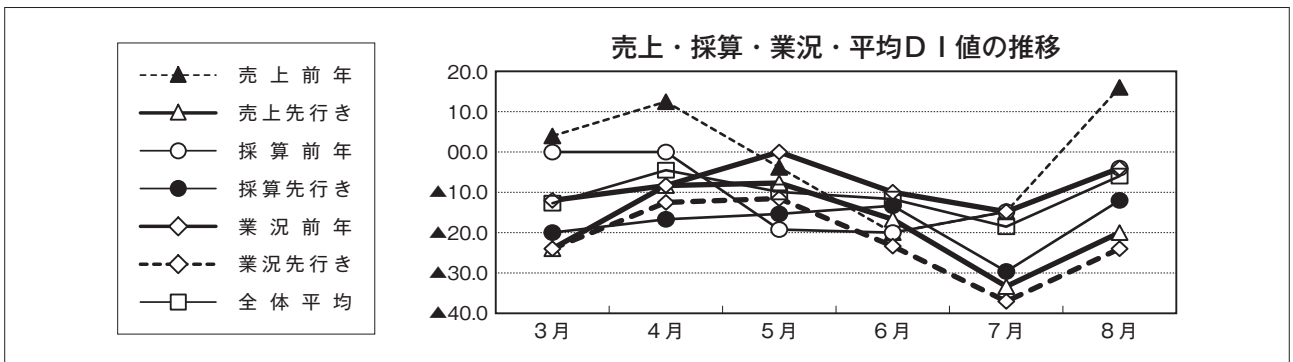
当所調査

当所調査「全体平均DIは4カ月ぶりの好転」

全体平均DIは ▲6・0ポイントで、前月に比べ+12・5ポイントの好転。項目別では、前月と比較し売上先行きが+13・3ポイント、採算先行きが+17・6ポイント好転した。寄せられたコメントには「国体による経済効果を期待している。一方、消費税増税による影響が懸念される(ホテル業)」という声が聞かれた。

(全産業) 水戸商工会議所商工振興員LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	平成30年		平成31年		令和元年		
	8月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
売上前年	▲16.7	4.0	12.5	▲3.8	▲20.0	▲14.8	16.0
売上先行き	▲16.7	▲24.0	▲8.3	▲7.7	▲16.7	▲33.3	▲20.0
採算前年	▲25.0	0.0	0.0	▲19.2	▲20.0	▲14.8	▲4.0
採算先行き	▲16.7	▲20.0	▲16.7	▲15.4	▲13.3	▲29.6	▲12.0
仕入前年	▲29.2	▲56.0	▲25.0	▲42.3	▲26.7	▲37.0	▲28.0
仕入先行き	▲45.8	▲48.0	▲29.2	▲38.5	▲40.0	▲40.7	▲28.0
社員前年	16.7	20.0	25.0	26.9	20.0	14.8	32.0
社員先行き	25.0	32.0	20.8	26.9	20.0	14.8	20.0
業況前年	▲33.3	▲12.0	▲8.3	0.0	▲10.0	▲14.8	▲4.0
業況先行き	▲20.8	▲24.0	▲12.5	▲11.5	▲23.3	▲37.0	▲24.0
資金前年	▲12.5	▲8.0	0.0	▲11.5	▲3.3	▲11.1	▲4.0
資金先行き	▲12.5	▲16.0	▲12.5	▲23.1	▲6.7	▲18.5	▲16.0
全体平均	▲15.6	▲12.7	▲4.5	▲9.9	▲11.7	▲18.5	▲6.0



*DI値(景況判断指数) = (増加・好転などの回答数 - 減少・悪化などの回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。